

来年4月開学の国際教養大

副学長にクラーク氏

前多摩大学長

2003.11.21
読売

県は二十日、来年四月開学予定の国際教養大学（雄和町）の組織・人事やシンボルマークを発表した。同大は独立行政法人として開学する予定。副学長に前多摩大学学長のクレグリー・クラーク氏（67）が就任するほか、学長の諮問機関として「トップ諮問会議」を設置するのが特徴だ。学長に内定している中嶋嶺雄氏は県庁で会見し、「地域に開かれ、世界に発信していくための人選をした。民間の発想で大学経営にあたりたい」と抱負を語った。

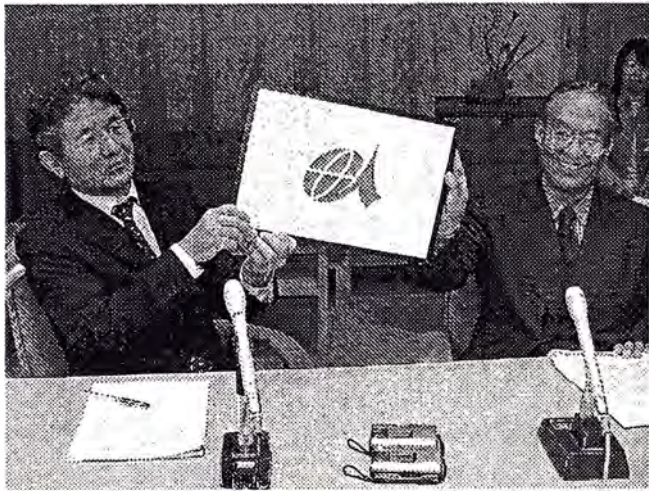
明石康氏も「諮問会議」議長に

「トップ諮問会議」（七人）は、世界の社会経済情勢や将来展望を踏まえた大規模な学教育のあり方を提言、助言するのを目的で、年に二回の程度開催する。比内町出身で元国連事務次長の明石康氏が議長を務める。委員は評論家の大宅映子氏、日本文学研究家のドナルド・キーン氏らが内定している。

（八）のメンバーは正副学長

のほかに、秋田公立美術工芸短大の石川好氏や日本テキサス・インスツルメンツ顧問の生駒俊明氏らが決まっている。年に六回の程度開催され、法人経営をはじめ、大学全般に関する重要事項を議決する。外部評価機関なども整備していく。

地域社会、国際社会に貢献する若々しい人材のイメージを図案化した。同大は英語の実践教育を重視し、授業を英語で行うほか、一年以上の海外留学を義務づけている。定員は百人。専任教員四十四人の約六割が外国籍で、特任教員は七人、非常勤講師は十八人となっている。



国際教養大のシンボルマークを発表する寺田知事（左）と中嶋氏

寺田知事は「これまで来るのに五年以上を要した。議会や県民の理解を得るための苦労が、今までの日本にはない大学の経営形態をつくれた要因となった。実学重視の価値ある大学にしたい」と語った。また、シンボルマークについては、全国から四百十六人（九百四十四点）の応募があった。最優秀賞に選ばれたのは、新潟県燕市のクラ